

## 日本消化器外科学会雑誌編集後記

私が本学会の編集委員として査読の業務に携わったのは今年の9月からで、そのときは既に論文オンライン投稿・査読システムが導入され稼働しておりました。そして今年の1月から、医学系和文学会雑誌としては本邦初の電子媒体化が始まり、第44巻第1号の論文から科学技術振興機構の“J-STAGE”上に掲載されるようになりました。このように学会雑誌の編集にかかわる業務がペーパーレス化へと大きく様変わりしていくなかで、自分自身もできるだけペーパーレス化での査読作業に挑戦してみようと思いつき、今年の正月にiPadとiPhone 4を購入したのであります。そして、GoodReader, Dropbox, Evernoteなどのアプリを購入してPDF化された投稿論文をScholarOne ManuscriptsからDropboxやEvernoteのDocumentsフォルダー内に取り込み、必要に応じてGoodReader内に移して論文内容を吟味し、時にはiAnnotate PDFを使用して訂正やコメントなどの書き込みを行って査読の作業を進めております。“メカに弱い自分でも、やればできるじゃん！”と自分でひたすら自分を褒めながら、毎月10編ほどの査読業務を熟しているところであります。

さて、今月号には原著1編、症例報告18編、臨床経験2編の計21編の論文がJ-STAGE上で掲載されています。そのうち初稿で受理されたものはありませんでしたが、再投稿での受理が7編、再々投稿以上での受理が14編でありました。特筆すべきは、第一線の診療に携わっておられる一般病院勤務の先生方からの投稿が16編(76%)と大半を占めていたことでもあります。日々の診療で大変忙しいなか、時間を割いて論文を作成された努力と学習意欲にあらためて敬意を表する次第です。できれば大学病院に勤務されている若い先生方にも多くの論文を投稿していただきたいものであります。

最後に、3月11日に発生しました未曾有の東日本大震災におきましてお亡くなりになられた方々に対し深い哀悼の意を表しますとともに、被災地の方々に謹んでお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復旧・復興を願って不眠・不休の救援・救護活動に携わっておられるDMAT(災害派遣医療チーム)やJMAT(日本医師会災害医療チーム)、さらには日本赤十字病院や一般病院・大学病院のスタッフの皆様方に深甚なる敬意を表します。

(太田 哲生)

2011年5月1日